

1. 第25回日本在宅ケア学会学術集会 in Kochi 開催報告

令和2年6月27日(土)「ライフ・デザインと多職種協働～主体的選択を地域で支える仕組みづくりに向けて～」をテーマとして、森下安子学術集会長のもと、第25回日本在宅ケア学会学術集会を開催した。

第25回学術集会はCOVID-19の拡大および緊急事態宣言の発出を受け、学術集会関係者、理事会で対応を慎重に検討を重ね、参加者の安全と健康を第一に考え、会期を1日に短縮し、高知市文化プラザかるぼーとを会場として、プログラムを限定したWeb上のLive開催とした。学術集会のWeb開催は、全国的にも前例が少ない状況にあり、看護学部においても、初めての試みであったが、看護学部教員がもっているWeb配信の知識や技術、また人的ネットワークを活用した総力戦で準備と運営を行った。また、卒業生や修了生、在校生、高知県下の看護職、セラピスト、薬剤師、ケアマネジャー等多職種の方々が、企画委員として協力して下さり、546名の参加を得て盛況のうちに終了した。

1)組織

学術集会長：森下安子

実行委員長：川上理子

企画委員：阿部恭宜、井上加奈子、久保田聰美、源田美香、小原弘子、下元佳子、竹中英利子、辻真美、平山司樹、廣内一樹、森下幸子、山本詩帆、山本恵理、安岡しずか

実行委員：池添志乃、瓜生浩子、川本美香、神原咲子、木下真里、坂元綾、佐東美緒、塩見里香、中井美喜子、乾由美

テクニカルサポート：衛藤徹、大川宣容、藤田竜、山田覚

運営事務局：日本旅行

(下線が学外メンバー)

第25回日本在宅ケア学会学術集会
ライフ・デザインと多職種協働
～主体的選択を地域で支える仕組みづくりに向けて～
会期を1日に短縮しプログラムを限定してWeb上でLive配信いたします

会期:2020年6月27日(土)
学術集会長 森下安子(高知県立大学看護学部)

参加登録期間(お申し込みより)
2020年6月16日17時まで
当日参加は受けできませんので
事前登録をお願いします

参加費
一般参加A(抄録あり):8000円
一般参加B(抄録なし):5000円
学生参加(抄録なし):1000円

参加方法
参加登録された方にはURL等をお知らせいたします

学術集会長講演
教育講演
特別講演
シンポジウムなど

主催:公益財団法人 在宅医療助成 専修大学財団
後援:高知県 高知市 高知県看護協会 高知県医師会 高知県歯科医師会 高知県薬剤師会
協賛:高知県看護専門学校 高知県介護支援専門員養成協議会 日本在宅ケアアライアンス 高知県立大学
実行委員会事務局 高知県立大学看護学部 〒781-8501 高知県高知市高知1-1-1
E-mail:jahc@kccu.kochi.ac.jp Fax:088-861-8810 http://www.convention-w.jp/jahc25/



2)企画・運営

5回の企画委員会の他、学内検討会やWeb上でのLive配信シミュレーションを定期的に行って参加者が視聴しやすくするための機器の選択や配置、また、講師が参加者の反応を確認しながら講演を進めるための配信方法の工夫について検討を重ねた。



企画委員会の議事内容は以下の通りであった。

(1) 第1回企画委員会：2019年5月19日（日）10:00～13:00

- ①高知市文化プラザかるぼーと内の使用会場
- ②準備スケジュール立案
- ③プログラム（学術集会テーマ、主要プログラム、講師）
- ④庶務・会計（予算、ポスター）
- ⑤その他

(2) 第2回企画委員会：2019年9月24日（火）18:30～20:00

- ①プログラム（主要プログラム企画案、日程・時間配分案、使用会場配分案）
- ②編集（演題登録項目、演題募集要項）
- ③広報・渉外（趣意書、趣意書・寄付等の発送先、）
- ④庶務・会計（封筒のデザイン、事前参加登録等、開催案内パンフレット、ポスター、ホームページ、予算案）
- ⑤その他

(3) 第3回企画委員会：2020年2月1日（日）9:00～11:00

- ①プログラム（主要プログラムの企画・座長、講師・シンポジストの依頼状況確認、タイムテーブル構成、交流集会の申込方法）
- ②編集（査読者候補、査読マニュアル、演題登録の呼びかけ）
- ③広報・渉外（懇親会の企画）
- ④庶務・会計（趣意書、広告・寄付金申込状況、ポスター配布、ホームページ更新、当日実行委員・ボランティア募集）
- ⑤その他

(4) 第4回企画委員会：2020年4月11日（土）9:00～16:00

- ①プログラム（開催方法変更に伴うプログラム再編成、座長、講師・シンポジストの再依頼状況の確認、）
- ②編集（抄録集、追加演題登録状況）

- ③広報・渉外（広告掲載等の申込状況、企業展示・懇親会中止の決定と対応、今後の広報活動）
- ④庶務・会計（事前参加登録状況、座長依頼・派遣依頼・座長再依頼文書、抄録送付文書、ホームページ更新、会計報告）
- ⑤その他

(5) 第5回企画運営委員会：2020年5月30日（日）9:00～10:00

- ①プログラム（Web1会場とWeb2会場のタイムテーブル再構成、zoomウェビナー設定、事前登録者への周知、配信テスト）
- ②Web開催に伴う感染予防対策
- ③学術集会当日の役割
- ④庶務・会計（事前参加登録状況、学会費納入の確認状況、会計報告、招待者の選定）
- ⑤広報（学会員へのニュースレターや他学会会員への広報）
- ⑥その他

3)プログラム

主要なプログラムを、以下のとおり編成した。

- ・学術集会長講演：主体的選択を地域・多職種で支える仕組みづくり
森下 安子（高知県立大学）
- ・特別講演Ⅰ：在宅ケアにおける多職種協働
春田 淳志（慶応義塾大学医学教育統括センター）
- ・特別講演Ⅱ：いのちの仕舞（しま）い
小笠原 望（医療法人関の会大野内科）
- ・教育講演Ⅰ：在宅ケアにおける多職種でかかわる服薬管理
川添 哲嗣（高知大学医学部附属病院）
- ・教育講演Ⅱ：保健医療福祉研究におけるテキストマイニングの活用
上野 栄一（福井大学医学部看護学科）
- ・シンポジウムⅠ：“高知家”の挑戦！人口減少・高齢化地域における
看取りまで支える地域包括ケアに向けた取り組み
下元 佳子（一般社団法人 ナチュラルハートフルケア ネットワーク）
廣末 ゆか（中芸広域連合保健福祉課）
田口 貴文（医療法人臼井会 田野病院）
宮地 通弘（高知県地域福祉部地域福祉政策課）
- ・シンポジウムⅡ：“高知家”の提案！災害多発時代における多様な個からの総力戦
神原 咲子（高知県立大学大学院看護学研究科）
衛藤 徹（有限会社アゴラ・クリエーション）
片岡 奈津子（特定非営利法人そーる そーる訪問看護ステーション）
- ・企業セミナー：在宅ケアのアウトカム評価方法とシステム開発および現場での利用方法
島内 節（日本在宅ケア教育研究センター）
芹田 三保（有限会社たくみケアサービス）
寺澤 保彦（株式会社コンダクト）
- ・ワークショップ：人材不足を救う・補う『ノーリフティングケア』
下元 佳子（一般社団法人 ナチュラルハートフルケア ネットワーク）
- ・一般演題：抄録集での紙上発表 124 演題

4) Live 配信講演の様子



5)成果

開催方法の変更で参加者の減少が懸念されたが、開催方法変更後も事前登録者数は増加し、全国から 546 名の参加があり、盛会のうちに終えることができた。

プログラムは、メインテーマ「ライフ・デザインと多職種協働～主体的選択を地域で支える仕組みづくりに向けて～」に沿って、多職種が在宅ケアにおける実践や研究の成果を共有して、新たな実践や研究に発展できるものとなるよう多職種でプログラム作成に取り組んだ。参加者のアンケート結果では、「多職種連携することの意味をあらためて実感できた」や「明日からの実践に活用できる内容がたくさんあった」という回答があり、それぞれの職種の専門性を生かしつつ連携するための取り組みや、研究成果がもたらす、実践への繋がりを示すことができた。また、コロナ禍で新たな取り組みとなった Web 上の Live 配信については、「場所が離れていても気軽に参加することができた」や、「リアルタイムのアンケートで講師との距離が近く感じた」という感想が多数あり、Live 配信シミュレーションで定期的な練習と、講師との密な打ち合わせにより、Web 上の Live 配信の利点を最大限に生かすことができた。一方、「音が聞き取りづらい時間があった」という回答もあり、安定した音環境の調整は課題である。

決算については、Web 開催となり、当初の見込みより通信費等必要となったが、会場費が抑えられたこと、参加者を予定数よりも多く得られたことにより、損失が生じることなく運営できた。